

メロン「イバラキング」の普及拡大とブランド化推進

鹿行農林事務所経営・普及部門

県オリジナル品種メロン「イバラキング」は、品種登録されて6年になります。その滑らかな肉質と爽やかな食味から茨城県の顔として定着しつつあります。当部門では、JAほこたメロン部会や関係機関と連携しながらさらなるブランド化に取り組んできた結果、28年産の出荷数量は11万箱、販売金額2億7千万円、平均単価2,402円/5kg箱となり、10aあたり粗収益は174万円と、アンデスを30万円ほど上回りました。

生産安定と普及拡大

高品質・安定生産を図るため、「イバラキング」の品種特性を理解した栽培管理を徹底するため、栽培講習会や、生育期間中の圃場個別巡回等による技術指導を行いました。

鉾田普及センター管内の平成28年産の栽培面積は16ha（JAほこた15.4ha、任意組合・個人0.6ha）となり、年々拡大しています。



果実周りの温度を測定し収穫期を予測

ブランド化の推進

JAほこたメロン部会研究部では、「イバラキング」のブランド化に向け①有効積算温度を見ながら完熟で収穫、②非破壊糖度計で17度以上の糖度を確認するといった基準を設け「特選イバラキング」生産に取り組んでいます。

基準を満たした「特選イバラキング」は東京都内百貨店の果実専門店で一玉4,320円（税込）で販売され、百貨店で開催された茨城フェアの目玉となりました。

「イバラキング」の栽培面積と販売金額の推移 (JAほこた)

	平成26年	平成27年	平成28年
栽培面積 (ha)	13.3	14.2	15.4
販売金額 (億円)	1.9	2.5	2.7

高品質生産技術の確立

ヒルネット防止対策のため、様々な被覆資材による現地実証圃を設置し、調査を実施しました。その結果、トンネル内の結露を防ぐ資材の導入により秀品率が向上することを確認しました。

また、内部品質の平準化を図るため、「イバラキング」の収穫時期を、生産者がほ場で確認できる専用の有効積算温度計（写真）を5台導入しました。これにより品種本来のなめらかな肉質のメロンが適期に収穫できるようになりました。



研究部員による検討会